

## プロジェクトメンバー業績一覧



## 平成27年度心理科学研究センター業績一覧

### 長田 洋和 研究代表者・専修大学人間科学部教授

長田洋和・栗田 広 (印刷中). 第4章 精神科臨床評価 ―特定の精神障害に関連したもの― 知的能力障害 (知的発達症／知的発達障害) 臨床精神医学44巻増刊号 アークメディア

Osada, H., Yamamoto, S., Shoji, Y., & Ueno, R. (2015). Development of the Infantile Interview Guide for Early Detection of Neurodevelopmental Disorders. The 12th International Family Nursing Conference. Odense, Denmark.

### 大久保 街亜 事務局長・専修大学人間科学部教授

Okubo, M., Ishikawa, K., Kobayashi, A., Laeng, B., & Tommasi, L. (2015). Cool guys and warm husbands: The effect of smiling on male facial attractiveness for short- and long-term relationships. *Evolutionary Psychology*, 13, 1474704915600567.

大久保街亜 (2015). 統計学的に有意? 帰無仮説検定でわかること・わからないこと 心理学ワールド, 68, 17-20.

大久保街亜 (2015). 神経心理学的テスト: 行動から脳機能を測定する 日本心理学会認定心理士資格認定委員会 (編) 認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 pp.262-273.

大久保街亜 (2015). カテゴリカル・データの分析 (pp. 172-187), 効果量 (pp. 200-214), 検定力 (pp. 215-217), メタ分析 (pp. 228-242) 小野寺孝義 (編) 心理・教育統計法特論 新訂NHK出版

Okubo, M. (2015). Race illusion: A pupillometry study. illusions - present and future. Open international seminar on perceptual Illusions. University of Oslo, Oslo, Norway.

Okubo, M., Ishikawa, K., Kobayashi, A., & Suzuki, H. (2015). Lateral posing bias for displaying trustworthiness. Biennial conference of Asian Association of Social Psychology and PAP 52nd Annual convention, Waterfront Hotel, Cebu City, Philippines.

Sakamoto, J., Somatori, K., Okubo, M., & Kunisato, Y. (2015). Depression and Intertemporal Choice of Pain: Maximum Likelihood Estimation vs. Hierarchical Bayesian Analysis. The 48th Annual Meeting of the Society for Mathematical Psychology, Newport Beach, California, USA.

Tanaka, T., Kunisato, Y., Okada, K., & Okubo, M. (2015). Why people frequently commit the base-rate fallacy. The 48th Annual Meeting of the Society for Mathematical Psychology, Newport Beach, California, USA.

Okubo, M., Ishikawa, K., Kobayashi, A., & Suzuki, H. (2015). Cheaters used the left hemiface to increase facial trustworthiness. The 56th annual meeting of Psychonomic Society, Hilton Chicago, Chicago, Illinois, USA.

Ishikawa, K. & Okubo, M. (2015). Gender differences for emotional expressions in social anxiety. The 56th annual meeting of Psychonomic Society, Hilton Chicago, Chicago, Illinois, USA.

大久保街亜・石川健太・小林晃洋 (2015). 笑顔の男性は魅力的か? 電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション基礎研究会, 沖縄産業センター.

坂本次郎・大久保街亜・国里愛彦 (2015). 抑うつにおける痛みの将来予測と意思決定: 計算論アプローチによる意思決定過程の検討 日本認知・行動療学会第41回大会 仙台国際センター.

大久保街亜 (2015). 公募シンポジウム「HMC法によるベイズ統計学の導入と実験データの分析: t検定・分散分析からの卒業」指定討論 日本心理学会第79回大会, 名古屋国際会議場.

石川健太・大久保街亜 (2015). 社交不安が他者の視線変化検出に与える効果 日本心理学会第79回大会, 名古屋国際会議場.

鈴木 玄・山上精次・大久保街亜 (2015). 視線変化による注意捕捉は男女で異なる 日本心理学会第79回大会, 名古屋国際会議場.

鈴木 玄・山上精次・大久保街亜 (2015). 男と女で視線検出は違う 日本基礎心理学会第34回大会, 大阪樟蔭女子大学.

### **澤 幸祐 研究推進責任者・専修大学人間科学部教授**

澤 幸祐 (2015). 学会企画シンポジウム「学会での初めての英語オーラル発表」 日本心理学会第79回大会, 名古屋国際会議場.

澤 幸祐 (2015). シンポジウム「異種間で伝達される社会的シグナルの探求 一種を超えて結ばれる絆の形成メカニズムの解明に向けて」企画 日本心理学会第79回大会, 名古屋国際会議場.

関口勝夫・牛谷智一・澤 幸祐 (2015). コラム3 スニッフィー (ソフトウェアを用いた仮想動物)

- による比較心理学の実習 日本心理学会・認定心理士資格認定委員会（編）認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 pp.102-105.
- 澤 幸祐・牛谷智一（2015）. コラム7 動物の行動観察 日本心理学会・認定心理士資格認定委員会（編）認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 pp.221-223.
- 澤 幸祐(2015). 動物たちは何を考えている？—動物心理学の挑戦— 日本動物心理学会(監修)・藤田和生（編著） 技術評論社

### **岡村 陽子 専修大学人間科学部教授**

- 岡村陽子（2015）. 高齢高次脳機能障害者のQOL及びウェルビーイングに影響を与える要因 専修大学人文科学研究会年報, 45, 89-105.
- 岡村陽子（2015）. 高次脳機能障害者の心理的適応に認知リハへの参加が与える影響 第39回日本高次脳機能障害学会学術総会, ベルサール渋谷ファースト.
- 松井健太・安保博史・渥美美奈子・浦 雄司・小磯さおり・濱口陽介・数野理恵・平野 栄・白野明・岡村陽子（2015）. 生活行動スキルを重視した高次脳機能障害グループプログラム—当事者, 家族のQOL変化から一考察— 第39回日本高次脳機能障害学会学術総会, ベルサール渋谷ファースト.

### **下斗米 淳 専修大学人間科学部教授**

- 山上精次・藤岡新治・下斗米淳（編著）（2015）. 図説現代心理学入門 四訂版 培風館
- 下斗米淳・風間文明・角尾美奈・飛田 操（2015）. 世間からの影響過程における自己機能の研究1：自己機能の検討 日本社会心理学会第56回大会, 東京女子大学.
- 角尾美奈・下斗米淳・風間文明・飛田 操（2015）. 世間からの影響過程における自己機能の研究2：警告反応としての社会的不安の検討 日本社会心理学会第56回大会, 東京女子大学.
- Somatori, K., Sakamoto, J., Shimotomai, A., & Kunisato, Y. (2015). What is a true measure for meta-cognition?: A Bayesian cognitive modeling approach. 48th annual meeting of the society mathematical psychology, Newport Beach, California, USA.

### **村松 励 専修大学人間科学部教授**

- 村松 励(2015). 書評：家裁調査官から見た現代の非行と家族—司法臨床の現場から 精神療法, 41(5), 136-137.

村松 励 (2015). 自主シンポジウム「刑事裁判における家族臨床の意義と可能性」指定討論  
日本家族研究・家族療法学会第32回大会, 山形大学.

村松 励 (2015). 研修事例スーパービジョン司会 日本家族研究・家族療法学会第32回大会,  
山形大学.

### 山上 精次 専修大学人間科学部教授

山上精次 (2014). 「心理測定」から「基礎実験2」へ (2) *Annals of Yamagami Laboratory*, 5,  
1-12.

石黒良和・榎本玲子・山上精次 (2014). 幼児の感情的役割取得対人問題解決から予測される  
対人行動 専修人間科学論集心理学篇, 5, 1-13.

林 大輔・大西まどか・山上精次 (2014). デジタル数字のクラウドニング効果と視覚処理の階層  
性の関係 日本基礎心理学会第33回大会, 首都大学東京.

榎本玲子・山上精次 (2014). 道具の使用方向と身体近傍空間の関連についての検討 日本基礎  
心理学会第33回大会, 首都大学東京.

堀越 歩・小林正法・真田原行・榎本玲子・山上精次 (2014). 幼児における虚記憶の発生メカ  
ニズムと自己制御機能の関係 日本基礎心理学会第33回大会, 首都大学東京.

鈴木 玄・山上精次・大久保街亜 (2015). 視線変化による注意捕捉は男女で異なる 日本心理  
学会第79回大会, 名古屋国際会議場.

石黒良和・榎本玲子・山上精次・藤岡 新治 (2015). 援助要請と生活適応感の関連性 ―他者軽  
視と自尊感情の観点から― 日本心理学会第79回大会, 名古屋国際会議場.

大岡駿介・榎本玲子・山上精次・村松 励 (2015). 自己制御資源の消耗が欺瞞行動に及ぼす影  
響 日本心理学会第79回大会, 名古屋国際会議場.

堀越 歩・榎本玲子・山上精次・吉田弘道 (2015). キーボードタッピングが侵入記憶に及ぼす影  
響 日本心理学会第79回大会, 名古屋国際会議場.

### 吉田 弘道 専修大学人間科学部教授

吉田弘道 (2015). 子育て支援と発達臨床心理学 ―発達精神病理学の視点を加えて― 専修人  
間科学論集心理学篇, 5(1), 31-40.

吉田弘道 (2015). 書評「発達精神病理学からみた精神分析理論 P.フォナギー/ M. タルジェ  
(著) 馬場禮子・青木紀久代 (監訳) 岩崎学術出版社」精神分析研究, 59(2), 253-255.

- 吉田弘道 (2014). Book Review 「遊びからみえる子どものこころ (日本遊戯療法学会編 日本評論社)」 児童心理学12月号 金子書房 p.126.
- 吉田弘道 (2014). 遊戯療法 (プレイセラピー) とはなんですか? カウンセリングとはなんですか? 原 仁 (編) 最新子どもの発達障害事典 合同出版 pp.90-91.
- 吉田弘道 (2015). 子どものこころの発達 滝口俊子 (編) 子育て支援のための保育カウンセリング ミネルヴァ書房 pp.41-59.
- 吉田弘道 (2015). 小特集「子育て支援と発達精神病理学」にあたって 子育て支援と心理臨床 vol.10 福村出版 p.68.
- 吉田弘道 (2015). 子どものまとまっている心を育てる子育て支援 (小特集「子育て支援と発達精神病理学」) 子育て支援と心理臨床vol.10 福村出版 pp.77-82.
- 堀越 歩・榎本玲子・山上精次・吉田弘道 (2015). キーボードタッピングが侵入記憶に及ぼす影響 日本心理学会第79回大会, 名古屋国際会議場.
- 吉田弘道 (2015). 大会委員会企画シンポジウム「大災害を経験した子育て支援システム ―破壊・再建・発展―」企画 日本心理臨床学会第34回秋季大会, 神戸国際展示場.
- 吉田弘道 (2015). 研究発表「問題行動の無い施設入所児童にプレイセラピーを導入することについて」指定討論 日本遊戯療法学会第21回大会, 神戸女学院大学.
- 吉田弘道 (2015). 気持ちに寄り添う言葉 母子保健協会設立80周年記念 第35回シンポジウム「保育における言葉とコミュニケーション」, 東京.
- 吉田弘道 (2015). 「地域における子育て支援 ―臨床心理士の新たな役割―」指定討論 第11回子育て支援講座, 京都.
- 吉田弘道 (2015). 気持ちに寄り添う言葉がけ 志木市立保育園 職員研修会, 志木市立保育園.

## 藤岡 新治 専修大学人間科学部特任教授

- 石黒良和・榎本玲子・山上精次・藤岡新治 (2015). 援助要請と生活適応感の関連性 ―他者軽視と自尊感情の観点から― 日本心理学会第78回大会, 名古屋大学.
- 藤岡新治 (座長)・荒井 淳・木下直紀・塚原さち子・岩倉 拓 (2015). 統合失調症前駆期のロールシャッハ上の特徴 (その2) ―顕在発症後に施工した再検査結果との比較から― 日本ロールシャッハ学会第19回大会, 立正大学.

## 石金 浩史 専修大学人間科学部准教授

- 松崎みどり・矢吹美帆・中沢 仁・石金浩史 (2015). 運動刺激順応後に観察される視運動反応の変化 日本神経回路学会第25回全国大会講演論文集, 10-11.
- Matsuzaki, M. & Ishikane, H. (2015). Retinal representation of escape-related visual information. Vision Sciences Society 15th Annual Meeting, St. Pete Beach, Florida, USA.
- Nagahata, M., Onoda, M., Mito, E., Harasawa, M., & Ishikane, H. (2015). Relationships between eating disorder tendency and body imaged-related size perception. Vision Sciences Society 15th Annual Meeting, St. Pete Beach, Florida, USA.
- 石金浩史・松崎みどり・矢吹美帆・中沢 仁 (2015). 運動刺激の長時間呈示がマウス視覚誘発性行に及ぼす影響 2015年度視覚科学フォーラム, ホテル福島グリーンパレス.
- 川島桐吾・谷原明子・瀧澤伸剛・大下陽介・坪 泰宏・北野勝則・天野 晃・石金浩史・小池千恵子 (2015). 網膜ON型機能欠損マウスの神経回路および投射経路解析 2015年度視覚科学フォーラム, ホテル福島グリーンパレス.
- 松崎みどり・矢吹美帆・中沢 仁・石金浩史 (2015). 運動刺激順応後に観察される視運動反応の変化 日本神経回路学会第25回全国大会, 電気通信大学.
- 長畑 萌・佐藤 駿・中沢 仁・原澤賢充・石金浩史 (2015). 摂食障害傾向は身体画像の大きさ知覚に影響する 日本心理学会第79回大会, 名古屋国際会議場.

## 国里 愛彦 専修大学人間科学部准教授

- Nishiyama, Y., Okamoto, Y., Kunisato, Y., Okada, G., Yoshimura, S., Kanai, Y., Yamamura, T., Yoshino, A., Jinnin, R., Takagaki, K., Onoda, K., & Yamawaki, S. (2015). fMRI Study of Social Anxiety during Social Ostracism with and without Emotional Support. *PLoS ONE*, 10(5), e0127426.
- Tsukue, R., Okamoto, Y., Yoshino, A., Kunisato, Y., Takagaki, K., Takebayashi, Y., Tanaka, K., Konuma, K., Tsukue, I., & Yamawaki, S. (2015). Do Individuals With Alcohol Dependence Show Higher Unfairness Sensitivity? -The Relationship Between Impulsivity and Unfairness Sensitivity in Alcohol-Dependent Adults-. *Alcoholism, clinical and experimental research*, 39(10), 2016-2021.
- 伊藤理紗・兼子 唯・巢山晴菜・佐藤秀樹・横山仁史・国里愛彦・鈴木伸一 (印刷中). 単一恐



- 怖症状の高い大学生における，エクスポージャー中の安全確保行動の効果 行動療法研究  
 国里愛彦（2015）．系統的展望とメタアナリシスの必須事項 行動療法研究, 41(1), 3-12.
- 小川祐子・武井優子・古賀晴美・島田真衣・長尾愛美・佐々木美保・国里愛彦・谷川啓司・鈴木伸一（2015）．補完代替療法をうける外来がん患者を対象とした主治医と話すことへのための構成員の構成概念の検討 心身医学, 55(7), 873-883.
- 国里愛彦（2015）．行動医学と生物統計学 野村忍・堤明純・島津明人・中尾睦宏・吉内一浩（編）行動医学テキスト 中外医学社 pp. 73-78.
- Sakamoto, J., Somatori, K., Okubo, M., & Kunisato, Y. (2015). Depression and Intertemporal Choice of Pain: Maximum Likelihood Estimation vs. Hierarchical Bayesian Analysis. The 48th Annual Meeting of the Society for Mathematical Psychology, Newport Beach, California, USA.
- Somatori, K., Sakamoto, J., Shimotomai, A., & Kunisato, Y. (2015). What is a true measure for meta-cognition?: A Bayesian cognitive modeling approach. The 48th Annual Meeting of the Society for Mathematical Psychology, Newport Beach, California, USA.
- Tanaka, T., Kunisato, Y., Okada, K., & Okubo, M. (2015). Why people frequently commit the base-rate fallacy. The 48th Annual Meeting of the Society for Mathematical Psychology, Newport Beach, California, USA.
- 兼子 唯・巢山晴菜・国里愛彦・伊藤理紗・鈴木伸一（2015）．不安からの回避・逃避行動の分類の検討 第7回日本不安症学会学術大会，広島アステールプラザ．
- 国里愛彦・柚取恵太（2015）．連合学習理論と不安症（シンポジウム「不安障害の心理学基礎研究と認知行動療法」） 第7回日本不安症学会学術大会，広島アステールプラザ．
- 国里愛彦（2015）．論文作成における尺度開発の方法と実際（機関誌編集委員会企画シンポジウム） 日本健康心理学会第28回大会，桜美林大学．
- 国里愛彦（2015）．介入効果のメタ分析（公募シンポジウム「現場に役立つ心理学（5）：研究・実践の効果を測定するための研究デザインとデータ分析」） 日本心理学会第79回大会，名古屋国際会議場．
- 国里愛彦（2015）．うつ病の反すうに関する脳画像研究（公募シンポジウム「反すう研究の最前線：国内で行われた研究を中心に」） 日本心理学会第79回大会，名古屋国際会議場．
- 国里愛彦（2015）．PROMISの取り組み 臨床疫学研究における報告の質向上のための統計学の

研究会, 東京医科歯科大学.

小田島裕佳・佐々木彩・国里愛彦・熊野宏昭 (2015). 注意バイアス修正課題の教示内容が社交不安と背外側前頭前野の総ヘモグロビン濃度に及ぼす影響: 近赤外線分光法を用いた検討 日本認知・行動療学会第41回大会, 仙台国際センター.

坂本次郎・大久保街亜・国里愛彦 (2015). 抑うつにおける痛みの将来予測と意思決定: 計算論アプローチによる意思決定過程の検討 日本認知・行動療学会第41回大会, 仙台国際センター.

柚取恵太・下斗米淳・国里愛彦 (2015). 新たなメタ認知課題の作成と妥当性の検討 日本認知・行動療学会第41回大会, 仙台国際センター

高垣耕企・岡本泰昌・神人 蘭・森 麻子・西山佳子・山村崇尚・横山仁史・塩田翔一・岡本百合・三宅典恵・尾形明子・国里愛彦・川上憲人・古川壽亮・山脇成人 (2015). 青年期閾値下うつを対象とした短期行動活性化の効果: 無作為化比較試験 第12回日本うつ病学会総会, 京王プラザホテル.

時田棕子・坂本次郎・柚取恵太・澤 幸祐・国里愛彦 (2015). 経験サンプリングにおける喫煙に渴望が与える影響: 系統的レビューとメタアナリシス 日本認知・行動療学会第41回大会, 仙台国際センター.

吉村普平・岡本泰昌・松永美希・国里愛彦・小野田慶一・鈴木伸一・山脇成人 (2015). うつ病に対する認知行動療法における内側前頭前野: 前帯状回間の機能的結合性の変化について 日本心理学会第79回大会, 名古屋国際会議場.

### 中沢 仁 専修大学人間科学部准教授

佐藤 駿・中沢 仁 (2015). 短時間順応下での時間知覚 一方位選択的処理の寄与— 基礎心理学研究, 34, 45-52.

佐藤 駿・中沢 仁 (2014). 視覚的運動情報による時間知覚の変化 一先行刺激および対象の運動が及ぼす影響とその相互作用— 日本基礎心理学会第33回大会, 首都大学東京.

### 長谷川 寿一 東京大学大学院総合文化研究科教授

Akechi, H., Stein, T., Kikuchi, Y., Tojo, Y., Osanai, H., & Hasegawa, T. (2015). Preferential awareness of protofacial stimuli in autism. *Cognition*, 143, 129-134.

Romero, T., Nagasawa, M., Mogi, K., Hasegawa, T., & Kikusui, T. (2015). Intranasal administration of oxytocin promotes social play in domestic dogs. *Communicative &*

*Integrative Biology*, 8(3), e1017157.

Sanada, M., Ikeda, K., & Hasegawa, T. (2015). Shape and spatial working memory capacities are mostly independent. *Frontiers in Psychology*, 6, 581.